

# 2019年度学習院大学史学会総会 第35回 学習院大学史学会大会

2019年 **6**月 **15**日(土)

学習院創立百周年記念会館  
3階小講堂・第1～3会議室  
(入場無料、事前申込不要)

総会 (9:00～10:50)

研究報告 (11:00～15:10)

大河 歩菜美 (学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程)

ローマ皇帝礼拝－地方都市におけるアウグストゥスのゲニウス、ヌーメン礼拝を中心に－

小武海 櫻子 (学習院大学文学部史学科助教)

20世紀初頭南洋における中国民衆宗教の展開－同善社を事例に

段 宇 (学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士後期課程)

始皇帝像の変遷－史学史からの一視座－

北川 恵海 (川崎市公文書館非常勤嘱託員)

川崎市における都市行政の成立と展開：1920～50年代の住宅政策を手掛かりに

那須 香織 (学習院大学大学院人文科学研究科史学専攻博士前期課程修了)

九世紀の陰陽頭について

空 由佳子 (日本学術振興会特別研究員)

フランスの大西洋貿易と後背地の変容－ラングドックの地域経済と食糧問題

※ 報告タイトルは変更の可能性がありますので、最新の情報は本会ホームページ等をご覧ください。

大会講演 (15:30～17:45)

鶴間 和幸 氏 (学習院大学文学部史学科教授)

中国古代美術の海外流出

浪川 健治 氏 (筑波大学名誉教授)

18世紀の緩やかな変化

－束縛からの解放と日常化するリスク－

主催：学習院大学史学会 (学習院大学文学部共催)

お問い合わせ：〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

学習院大学文学部史学科研究室内

(E-mail) shigakukaitaikai@yahoo.co.jp

# 研究報告要旨

## 【第一部 11:00～12:00】

ローマ皇帝礼拝—地方都市におけるアウグストゥスのゲニウス、ヌーメン礼拝を中心に— 大河 歩菜美 於 第1会議室  
従来の学説では、ローマ市やローマ市民の居住するイタリア諸都市において画一的に存命中の皇帝に対する直接的な礼拝は避けられ、生前にはそのゲニウス（守護神）やヌーメン（神性）等を介して間接的に礼拝を受けていたとされてきたが、報告者は、当該地域の実際の礼拝は存命中の皇帝の直接的な礼拝も存在する実に多種多様なものであったと考える。本報告では、アウグストゥス時代の地方都市を中心に、金石文史料を用いてそのことを証明する。またその際には、死後神格化された皇帝 Divus の礼拝をも取り上げることで『ローマ皇帝礼拝』概念の有効性についても言及してみたい。

20世紀初頭南洋における中国民衆宗教の展開—同善社を事例に— 小武海 櫻子 於 第3会議室  
20世紀初頭の中国四川東部に成立した同善社は、1920年代にシンガポール、タイ、マレーシアへと展開してゆく。その南洋布教の拠点となったシンガポールの華人社会にどのように受容されたのか、南洋における中国民衆宗教運動としての位置づけを明らかにする。

## 【第二部 13:00～14:00】

始皇帝像の変遷—史学史からの一視座— 段 宇 於 第1会議室  
周知の通り、秦の始皇帝は歴史上の重要な人物である。名君の誉れ高かった半面があるが、非道な暴君としての姿でも語られている。秦始皇帝像は歴史を思考する主体の側の時代を反映する鮮明な時代性があるとされている。本報告では秦始皇帝像の生成と変遷へ着目し、文献史料の分析を行うことで、その歴史的・社会的な原因を解明することを目指している。

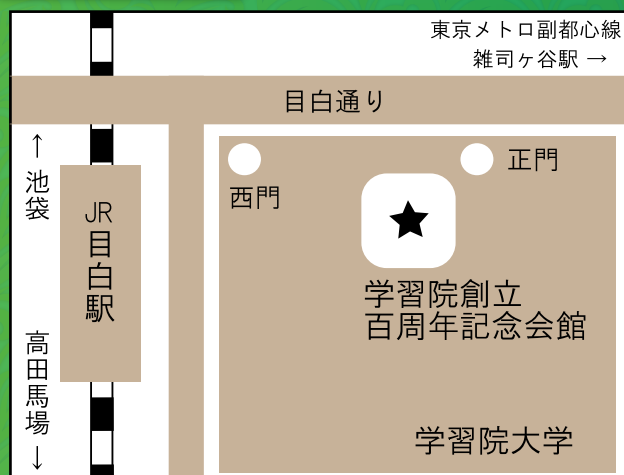
川崎市における都市行政の成立と展開：1920～50年代の住宅政策を手掛かりに 北川 恵海 於 第3会議室  
本報告は、1900年代初頭から急速に工業化・都市化が進んだ川崎市を事例に、都市行政、とりわけ住宅政策について、市役所機構の成立と展開の過程に即して論じるものである。戦時期にかけての川崎市役所における技術系吏員の動向と、彼らが国（住宅営団）や県とどのような折衝を重ねて住宅政策を策定していったのか追っていく。

## 【第三部 14:10～15:10】

九世紀の陰陽頭について 那須 香織 於 第1会議室  
陰陽寮の長官である陰陽頭に就任する人材は九世紀をかけて変化していく。すなわち、他の官司のポストを含めた昇進過程の一つとして存在していたものが、陰陽寮の官人らの昇進ポストになっていく。陰陽寮における人材の生産とその活用を考えるうえで、この変遷の要因を分析していく。

フランスの大西洋貿易と後背地の変容—ラングドックの地域経済と食糧問題— 空 由佳子 於 第3会議室  
大西洋貿易が内陸に与えた影響を、南フランス・ラングドック地方の地域経済と食糧問題を通して考察する。ボルドーとマルセイユの後背地にあたるラングドック地方では、大西洋規模の生産・交換・消費の流れに組み込まれるのと並行して、地域間分業が進んだ。本報告では、ラングドックの複数の地域を取り上げ、経済活動と穀物供給の条件の相違や相互関係を検討することで、南フランスの社会経済状況の変化を捉える。

## 会場案内



JR山手線 目白駅下車、徒歩2分  
東京メトロ副都心線 雑司ヶ谷駅下車、徒歩7分

※ 駐車スペースの都合上、お車でのご来場はご遠慮ください。  
※ 大会講演終了後、18:00から同会場にて懇親会を開催いたします。奮ってご参加ください。

《懇親会会費》  
学部生：無料 学習院大学史学会会員：500円  
一般：1,000円

主催：学習院大学史学会  
共催：学習院大学文学会